全学共通科目『現代の大学・大学生論 A』（溝上慎一・西山伸担当）　平成16年7月20日（火）

氏名		学部 回生		学籍番号	

［問1］　次の史料は 1949 年 7 月に挙行された新制大学第 1 回の入学式における、当時の京大総長鳥養利三郎の式辞の一部である。これを読んで以下の問いに答えよ。

> 由来大学には二つの型が考えられる。第一の型は学問研究を通じて各分野に於ける専門家を養成することを主要目的とし、専門知識の学修を通すことによりて人格の涵養を計らむとするもの、換言すれば知的発展に重点を置くものであります。第二の型はもちろん専門教育を忘れるものではないが、主なる目的を人格の完成に置くものであって、知的発達の外に社会的徳性の発達にも大いに努力を払うものである。従来の大学は、この二つの型の中間形態、混合形態であったと言える。中世の大学は専ら第二の型であったのであるが、近代科学の発達に伴う学問の専門化につれて、大学も第一の型に変転せざるを得なくなったと見られるのである。然るに我が新制大学は、学問研究は別に考慮することとして、大学の学習目標を第二の型に変転せむとするのである。

鳥養の式辞をふまえて、これからの大学の在り方はどのようなものが望ましいと考えるか。京大の創立から現在までの歴史に言及しながら述べよ。

【解答欄】

＊裏へ進んでください

【解答欄】

［問2］　青年の「アウトサイド・イン」「インサイド・アウト」による人生形成の仕方を、大学教育や大学生の時代的姿の変遷に言及しながら説明しなさい。そして、その観点から、現代大学生（あるいは現代の京大生でも可、しかしその別は明示すること）の生き方問題（大学生活や人生の見通しなど）について自由に論じなさい。

【解答欄】

裏に進んでください

【解答欄】